

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2024 概要報告

2025 年 1 月

ESD 活動支援センター

日時：2024 年 12 月 1 日（日）10:00～16:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室

プログラム：

10:00 開会挨拶（環境省）

10:05 環境教育・ESD 実践動画 100 選認定書授与式

11:00 基調報告（環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室長 黒部一隆氏）

11:15 基調報告（文部科学省国際統括官付国際戦略企画官 本村宏明氏）

11:30 ポスターセッション前半（15 団体）

1) (特定非営利活動法人)持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）

2) 公益財団法人大阪 YMCA

3) 公益社団法人ガールスカウト日本連盟

4) 一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）

5) 公害資料館ネットワーク

6) 国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）

7) 一般社団法人里山こらぼ/駿河台大学

8) 青年環境 NGO Climate Youth Japan

9) 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

10) 2025 年日本国際博覧会協会

11) 一般社団法人日本環境教育学会

12) 北海道地方 ESD 活動支援センター

13) 関東地方 ESD 活動支援センター

14) 近畿地方 ESD 活動支援センター

15) 四国地方 ESD 活動支援センター

12:00 ポスターセッション後半（15 団体）

1) NPO 法人環境自治体会議環境政策研究所

2) 特定非営利活動法人気候ネットワーク

3) 公益財団法人国際文化フォーラム

4) 公益財団法人消費者教育センター

5) 次世代ユネスコ国内委員会

6) 一般社団法人 Change Our Next Decade

7) NPO 法人栃木県環境カウンセラー協会

8) 日本 ESD 学会

9) 公益財団法人日本環境協会

10) 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

11) 合同会社エゾリンク

12) 東北地方 ESD 活動支援センター

13) 中部地方 ESD 活動支援センター

14) 中国地方 ESD 活動支援センター

15) 九州地方 ESD 活動支援センター

12:30 昼休憩

13:30 基調講演 (堅達京子氏 : NHK エンタープライズエグゼクティブ・プロデューサー)

14:15 休憩

14:25 パネルディスカッション (テーマ : 気候危機を乗り越えるために我々に求められること)

モデレーター :

二ノ宮リムさち氏 (立教大学環境学部設置準備室/大学院社会デザイン研究科教授)

パネリスト :

堅達京子氏 (NHK エンタープライズエグゼクティブ・プロデューサー)

佐藤真久氏 (東京都市大学大学院環境情報学研究科・研究教授)

高田研氏 (地球温暖化防止全国ネット (JNCCA) 理事長)

秦さやか氏 (杉並区立西田小学校 主任教諭)

加藤弘人氏 (青年環境 NGO Climate Youth Japan 会計統括/エネルギー政策チーム/

一橋大学経済学研究科 修士課程 1 年)

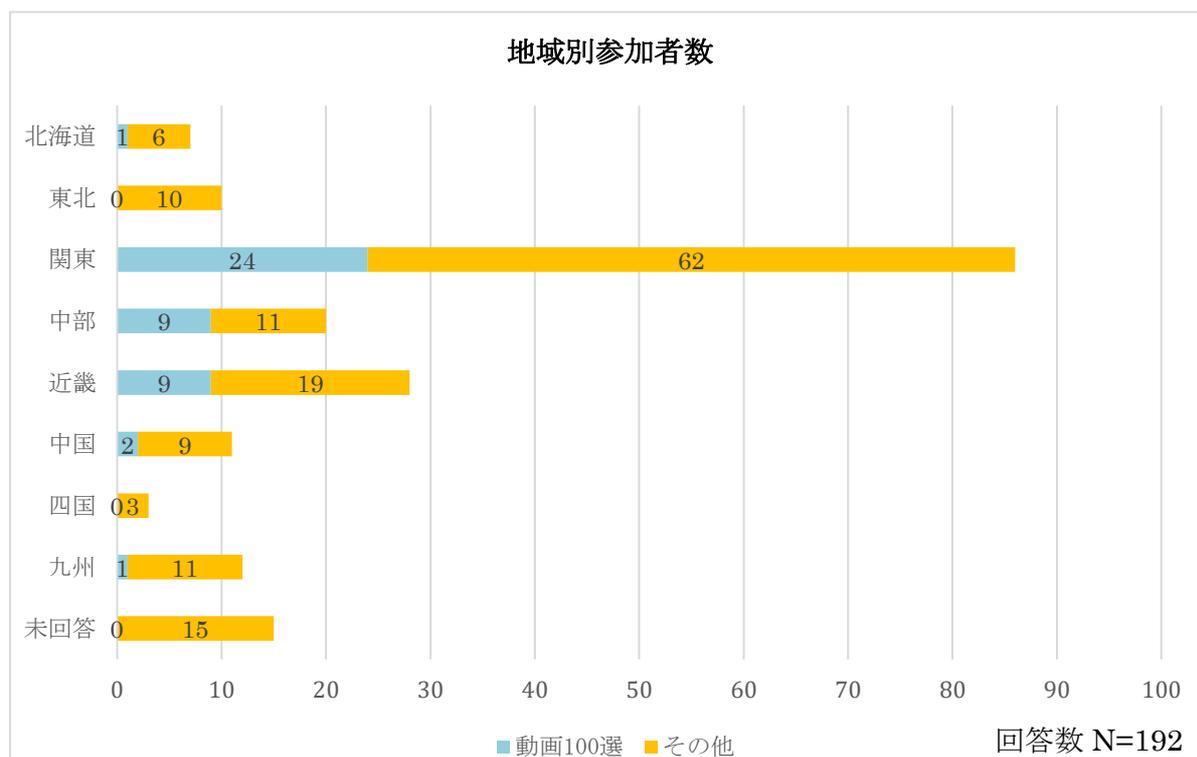
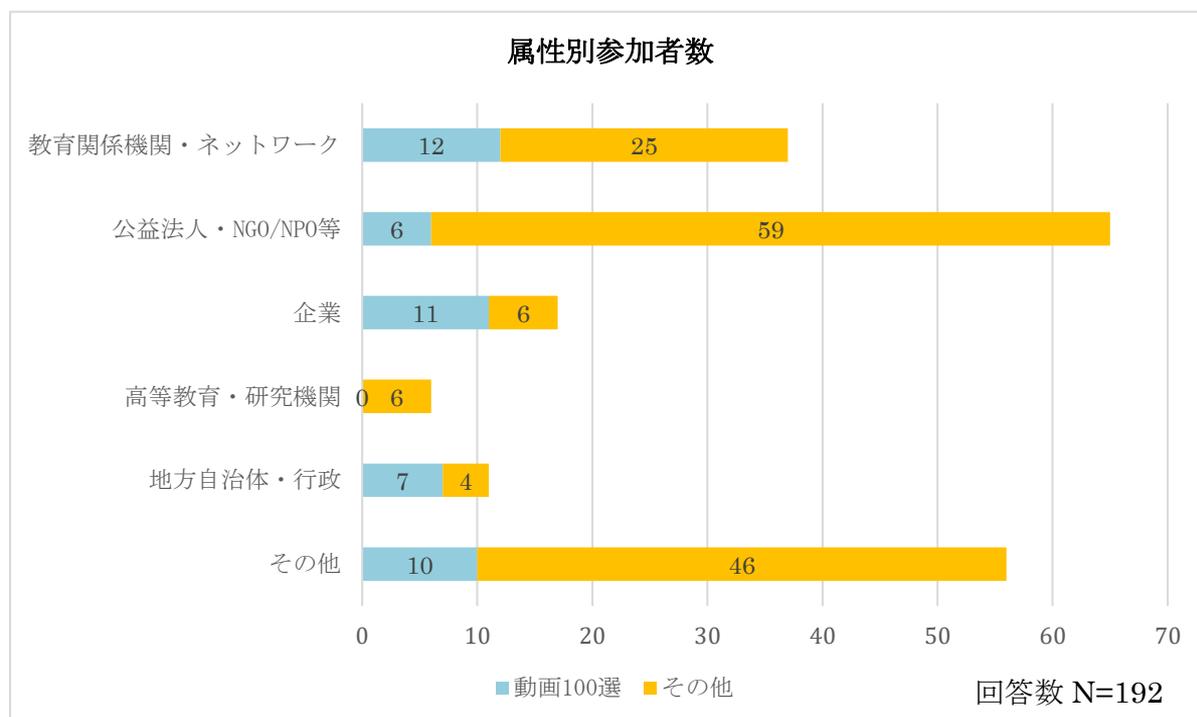
15:55 閉会挨拶 (阿部治 : ESD 活動支援センターセンター長)

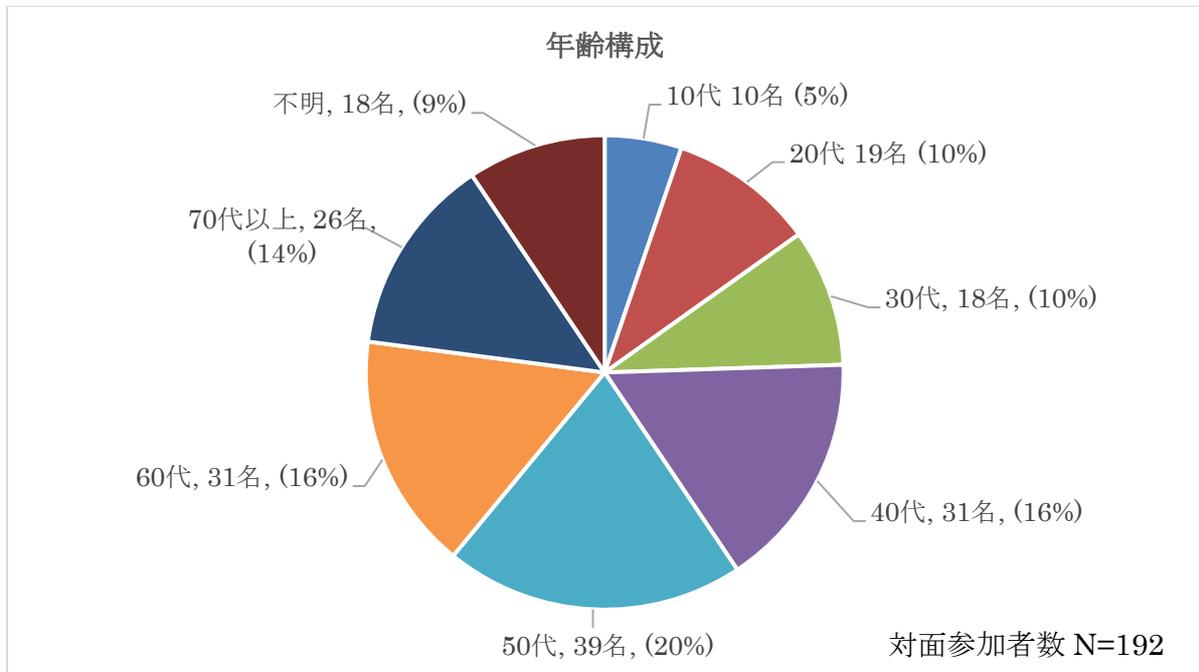
16:00 終了

会場参加者数：134名

オンライン視聴申込数：58名

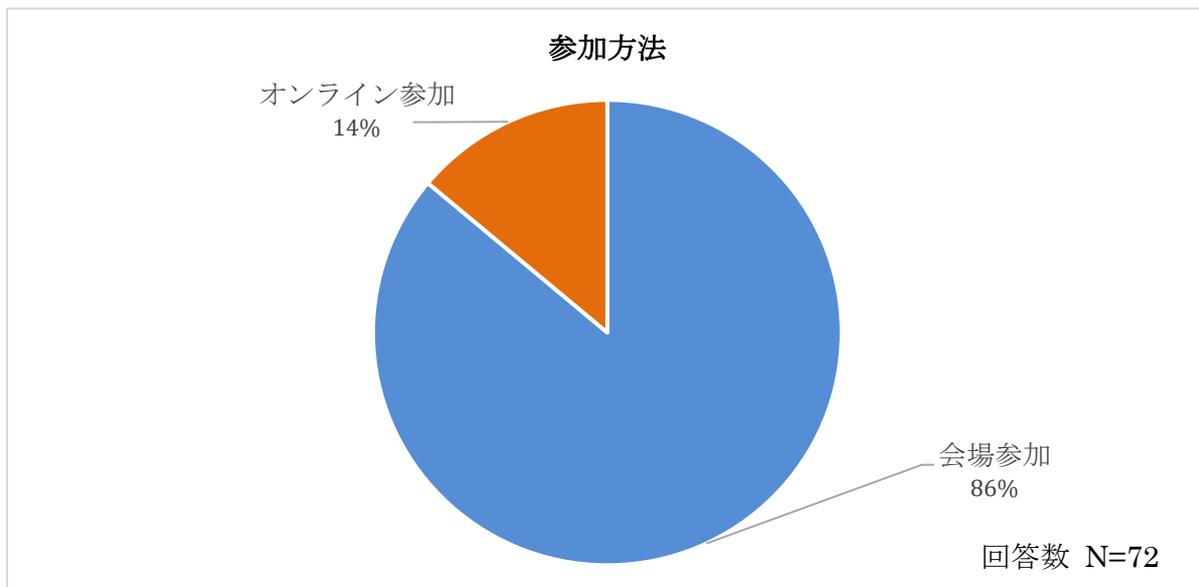
【参加者の内訳】





【参加者アンケート結果】

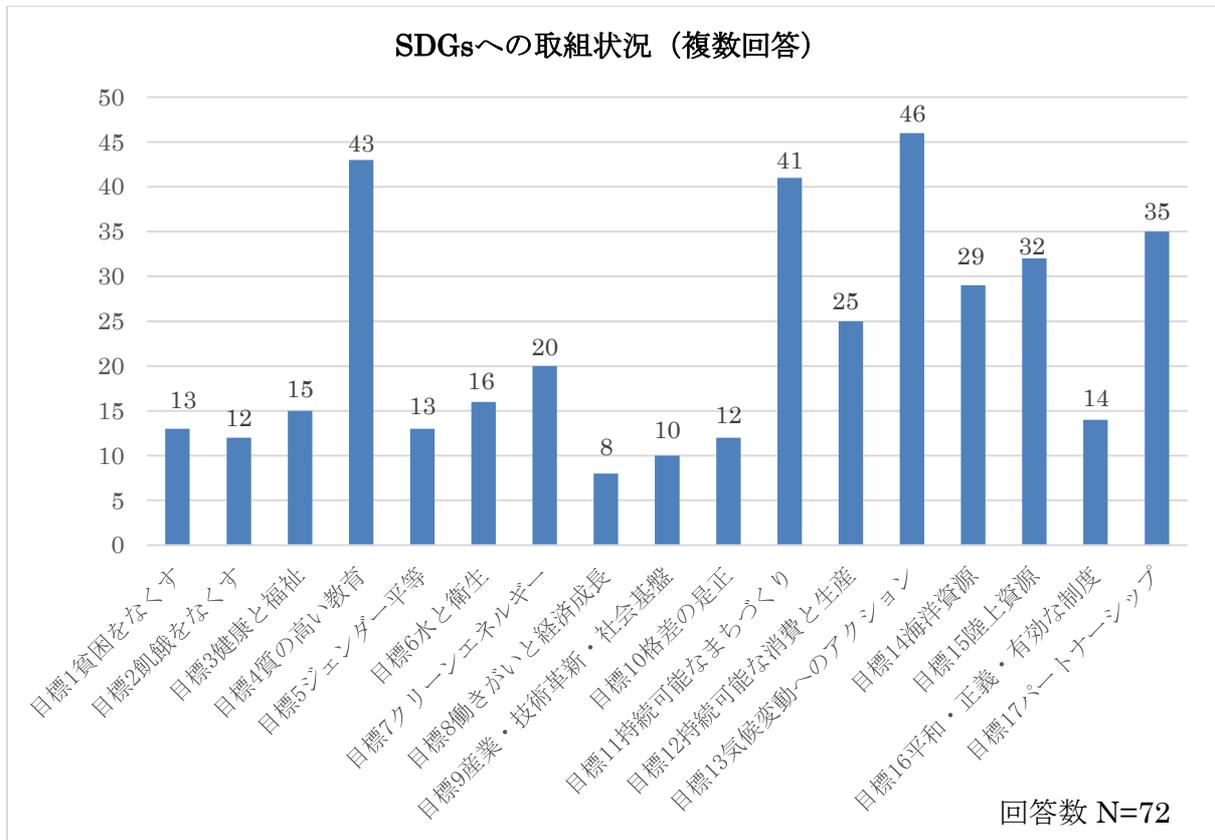
◎参加方法



1. 参加者の属性

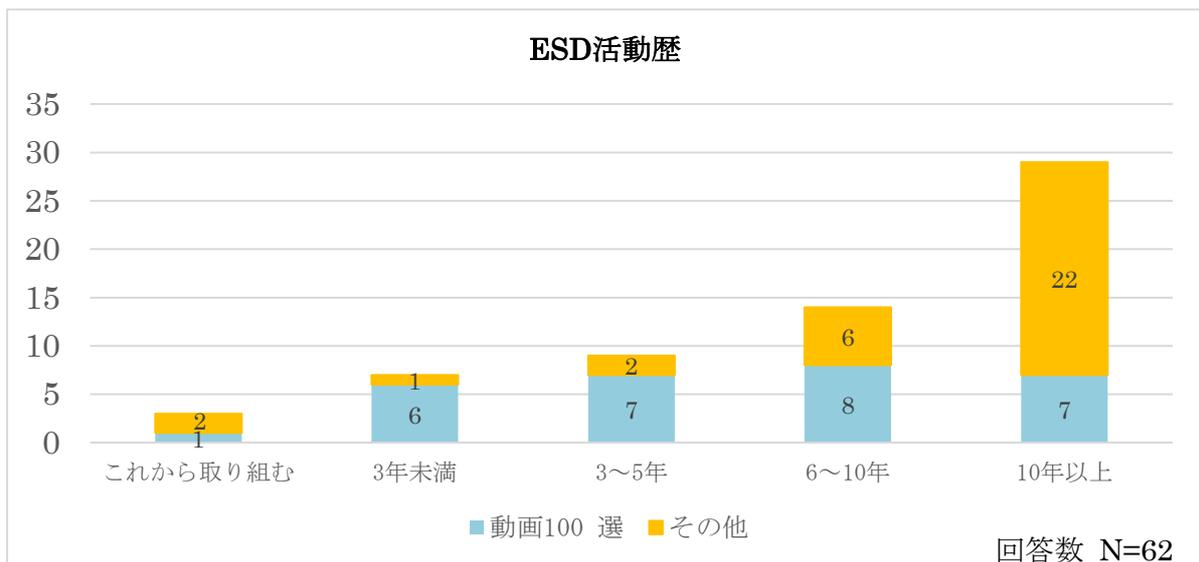
(1) SDGs への取組状況

SDGs13（気候変動）が最も多く、SDGs4（質の高い教育）、SDGs11（持続可能なまちづくり）が続いている。SDGs17（パートナーシップ）、SDGs15（陸上資源）などへの取り組みも多い。



(2) ESD に係わる活動歴（経験年数）

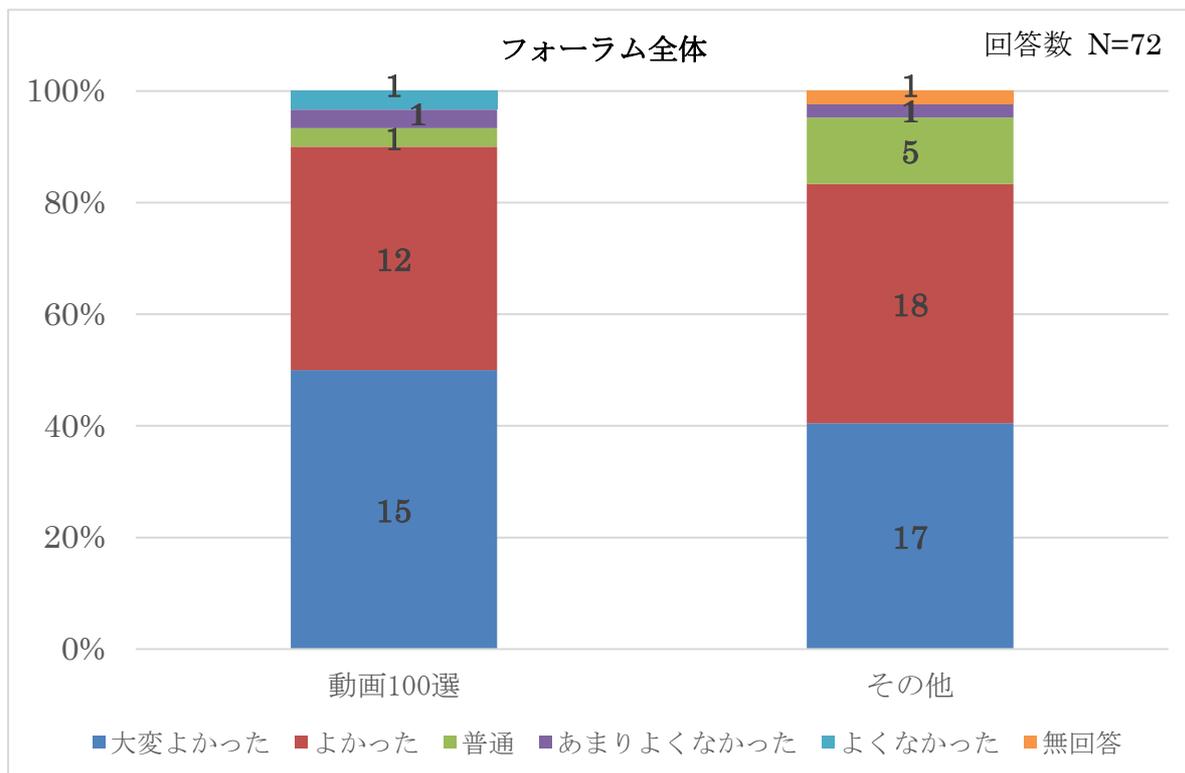
ESD に係わる活動にこれから取り組もうとしている団体が少数存在する一方、活動歴が10年未満の団体においても、活動を継続している団体程その数が増加していく傾向が見受けられる。しかし、特出すべきは10年以上の活動経験を持つ団体が最も多いことである。動画100選に関しては活動歴に関わらずほぼ一定数の団体が参加されている。



2. フォーラムに対する評価

(1) 全体評価及びプログラムごとの評価

【フォーラム全体】



全体を通しての意見・感想
<p>フォーラム全体について</p> <p>なるべく、環境教育フォーラムではなく ESD フォーラムになるような内容であるといい。同日開催のユースフォーラムと内容やターゲットのすみわけができていたと思うが、ユネスコスクール全国大会から継続して全国フォーラムに参加した人は少ない印象だった。また、午前だけの参加者も多く、実践動画 100 選授賞式にたくさん学生さんも来てくれたがその後はそのまま退出したようだった。ユネスコウィークと合わせて開催できたことや文科省の担当官が対面で参加したことは大きな成果だったと思う。また、個人的には、全国フォーラムは実践者が全国から集まる貴重な場なのでもっと参加者間で交流ができればよいと思う。ユネスコウィークの企画でもそうした機会は案外ない。(20代)</p> <p>子どもへの教育を通じて保護者を含めた大人にどう行動変容させていくのかという視点も考えていきたい。(50代)</p> <p>問題意識を持っている仲間がいる。若い世代から年齢の高い方まで。とても心強く感じ、また、課題に思っていない方々へのアプローチについても深く考えさせられました</p>

(50代)
会全体の流れがとてもよかったですと思います。活動をエンパワーする表彰式、基調報告（環境省、文科省）、ポスターセッション、パネルディスカッション・・・それぞれにインタラクティブで学びの多い一日でした。ポスターセッションに財団として参加させて頂きましたが、動きのあるネットワーキングにつながり感謝しております。（50代）
日本各地で活動する ESD 実践を行っている方たちとの意見交換は、普段感じている課題点の共有できることとなり、自分たちの励みにもなりました。（40代）
前向きなご参加者が多く、ポスターセッションでも熱心に聞いてくださってよかった。基調講演からパネルディスカッションへの流れも自然でよかった。（50代）
オンライン配信で、音が途切れたり、映像が途絶えたりするのが残念だった。アーカイブ配信があるなら見たいです。ポスターセッションの前半後半に分かれていたが、始まる前に見に来てくれた人に捕まってしまい他のポスターに回る時間がとれなかったので、前半・後半の発表団体が分かるような配置にして欲しかった。（40代）
何度も途切れて、聞くに忍びない状態になったので、午前中だけで、フェードアウトしてしまった。ポスターセッションが配信されないのなら、真ん中に持ってこなくてもよかったのではないですか？（60代）
様々な実践者たちのお話を聞いたことは良かったです（ポスターセッション）。パネルディスカッションなどは、もう少し実践的で現場に近い内容のプログラムであったほうが良いと感じました。（30代）
環境教育・ESD 実践動画 100 選について
環境教育・ESD 実践動画 100 選は素晴らしい発想の事業だと思います。今後、例えば総合の時間での取組を具体的な単元を通した授業の動画があると学校での取組が普及すると思います。学校では ESD に取り組みたいが何をどうすれば良いのか分からないのが一般的な現状です。（70代）
環境教育・ESD 実践動画 100 選の優秀賞、下伊那農業高校の『竹再生物語』がとても素晴らしかったです。ポスターセッションでは、様々な取り組みをされていることが知れて興味深かったです。また、まだ把握していない団体のことが知れたことや、他地方の ESD 活動支援センターの方と面識を持てたことなどが楽しかったです。本当に環境問題をなんとかしたいと思っている方がたくさんいることに勇気づけられました。（40代）

ポスターセッションについて

昨年も参加したが今年は参加者同士が交流する機会が散りばめられており大変良かった。特に、ポスターセッションはたくさんの人とつながることができた。基調講演とパネルディスカッションも分かりやすかった。(40代)

ポスターセッションは事前に出展情報がわからないと効果半減だと思います。次回はせめてタイトルと発表者のリストを掲載してください。(60代)

基調講演について

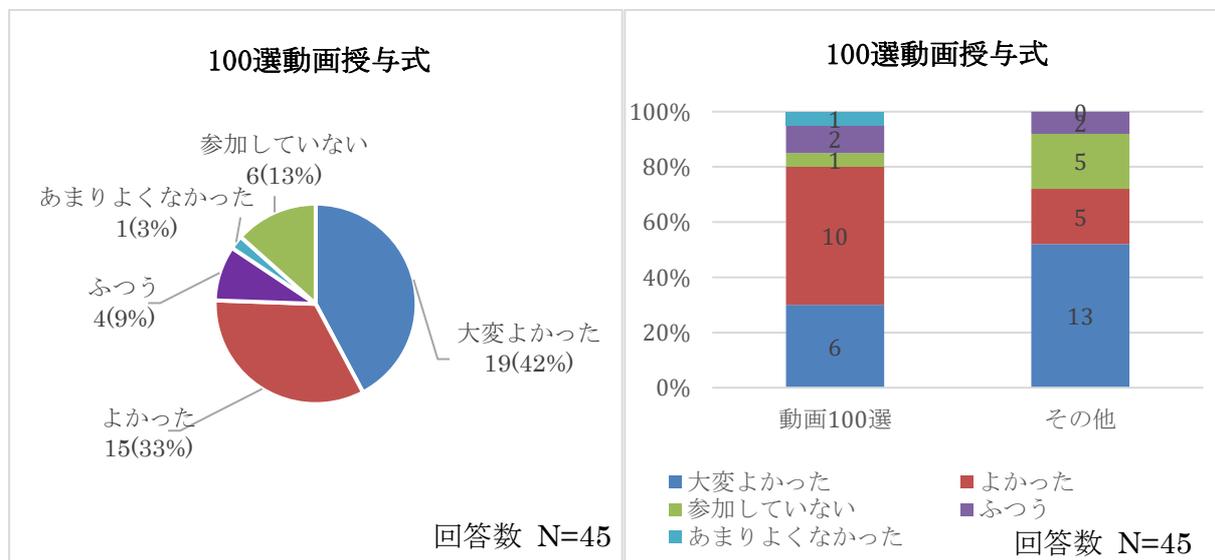
堅達さんのお話は分かり易くて、勉強になりました。特に COP29 で 6 歳の子がスピーチをしたお話や、18 歳で自分の国を変えられると思うかという質問に回答する日本の若者の意識が世界の若者と比べて後ろ向きであることについては、もっと前向きに考えられる社会へ変えていかなくてはと感じました。環境省の方へ 26 歳の若者の発言を聞き入れない姿勢について指摘があったのも良かったです。そのようなことまでも発言し易い雰囲気だったことにも感謝です。(50代)

その他

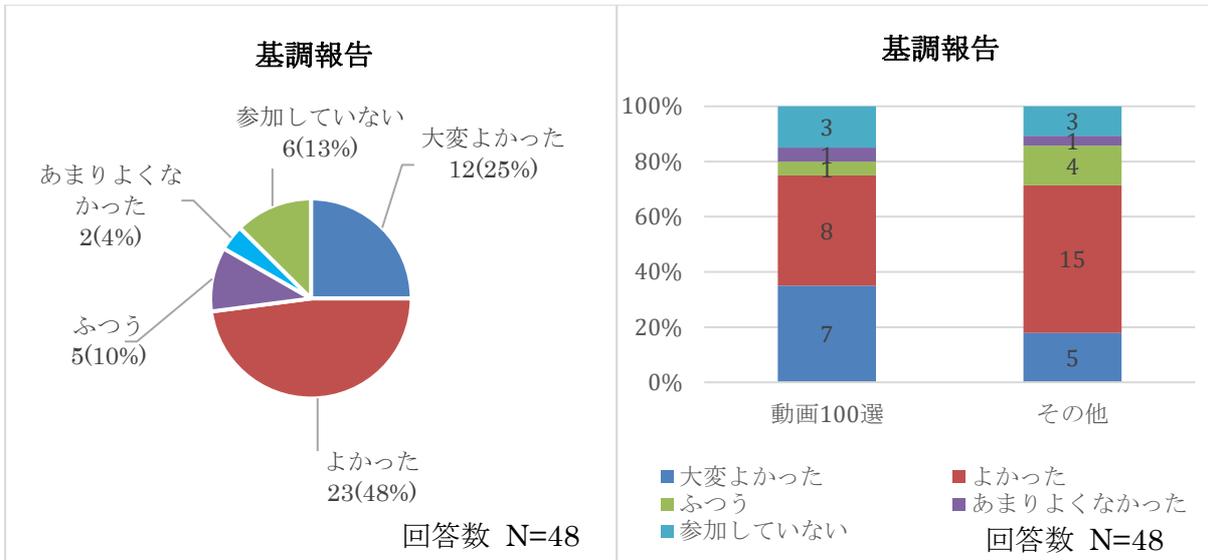
【行政説明について】行政説明で今置かれている状況がよく理解できました。また COP の報道されない様子も知ることができてリアルな動きをとものにすることができました。パネルはもう少しお一人お一人にしっかりお話を聞きたい気持ちにもなりました。ただ一方で参加しているみんなが話す機会も貴重でした。(50代)

※以下の集計は会場参加者の回答のみを対象とした。

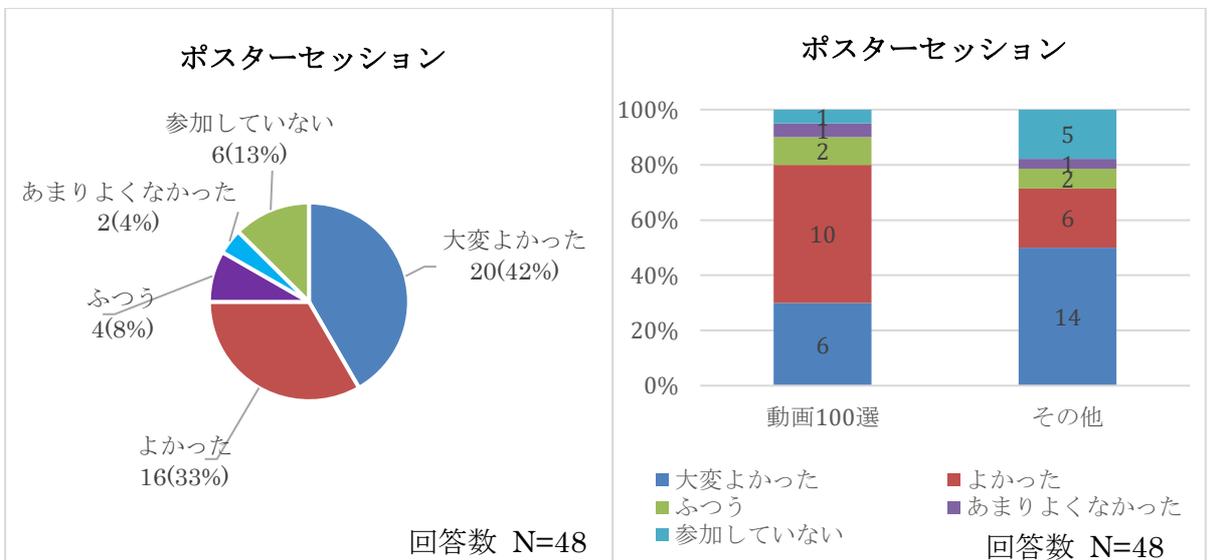
【環境教育・ESD 実践動画 100 選授与式】



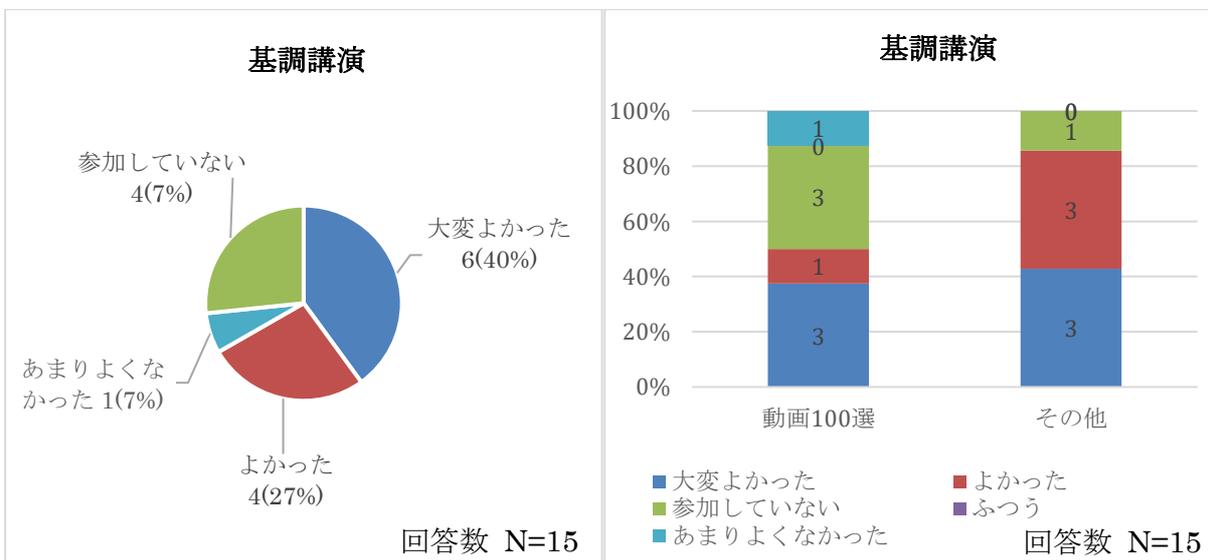
【基調報告】



【ポスターセッション】



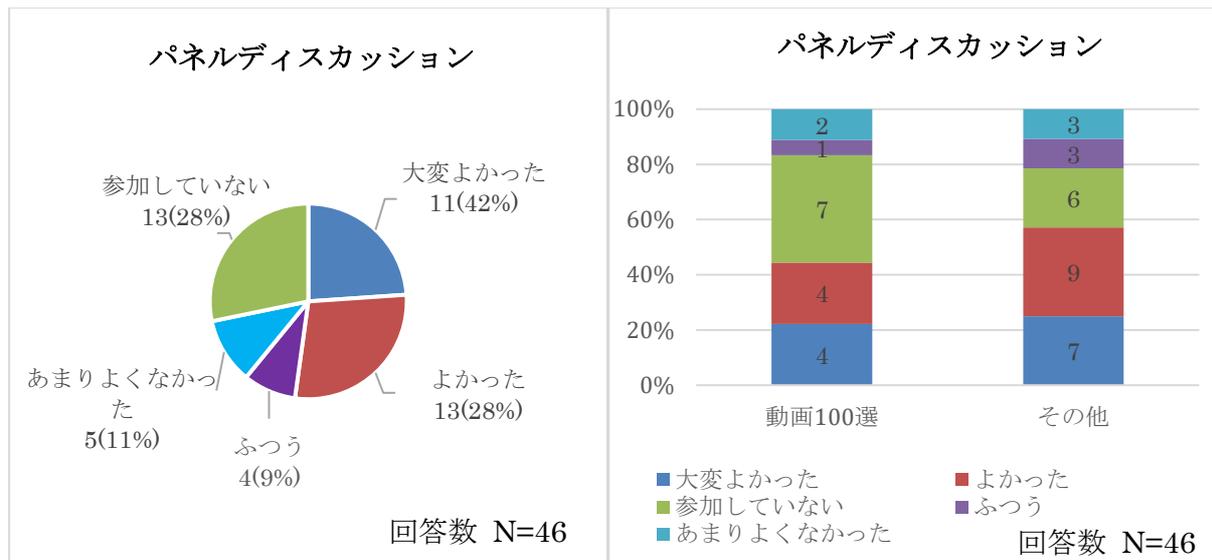
【基調講演】



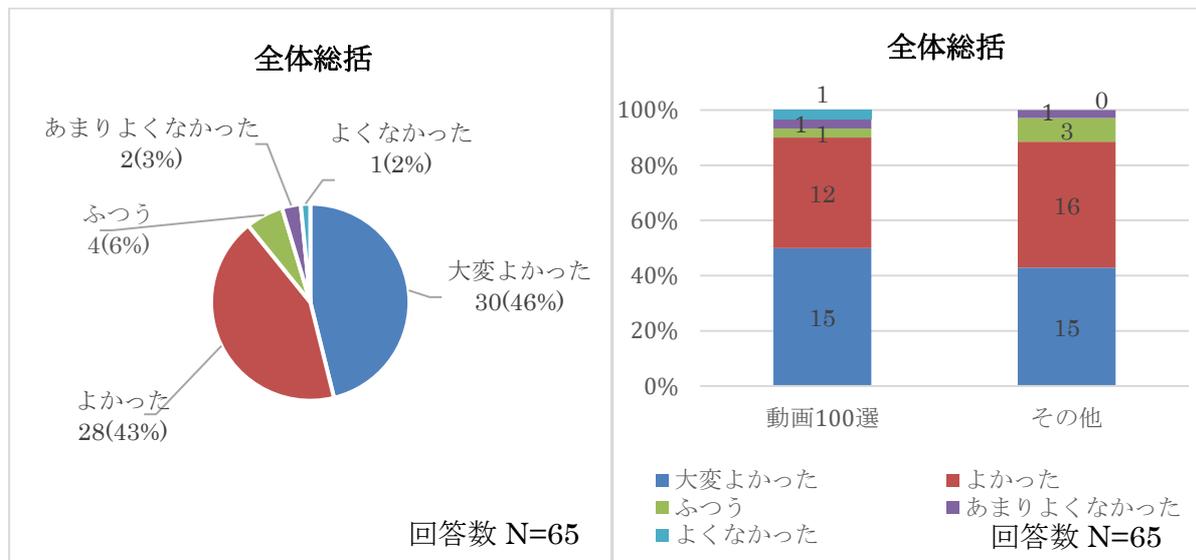
補記：基調講演のアンケート回答数が少ない点について

アンケートフォームに不備があり、回答が反映されていなかった。その結果、アンケート結果回答数が他の項目と比べて少なくなっている。

【パネルディスカッション】



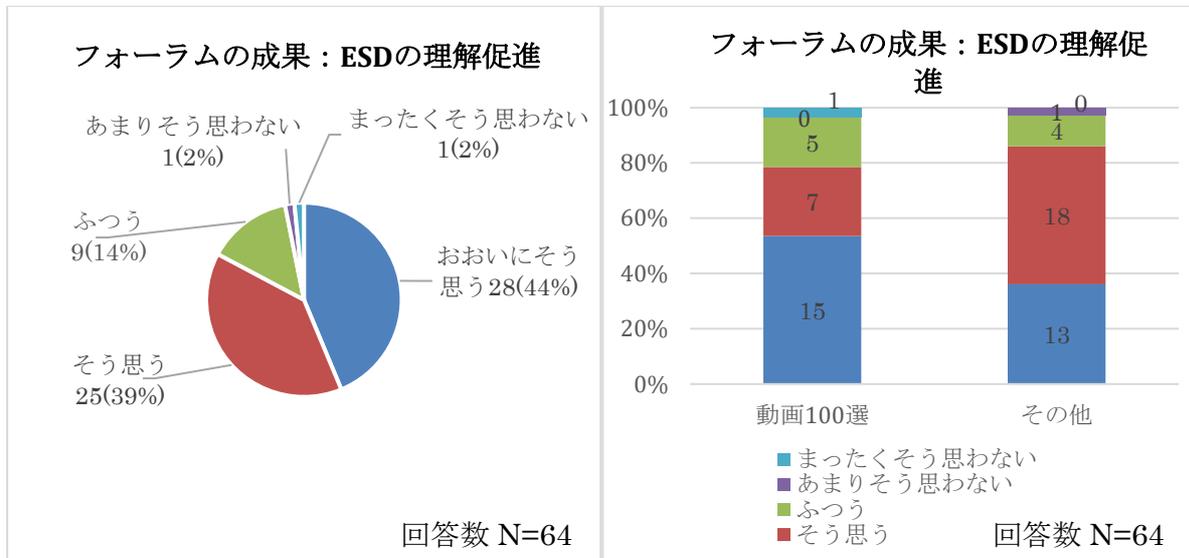
【全体総括】



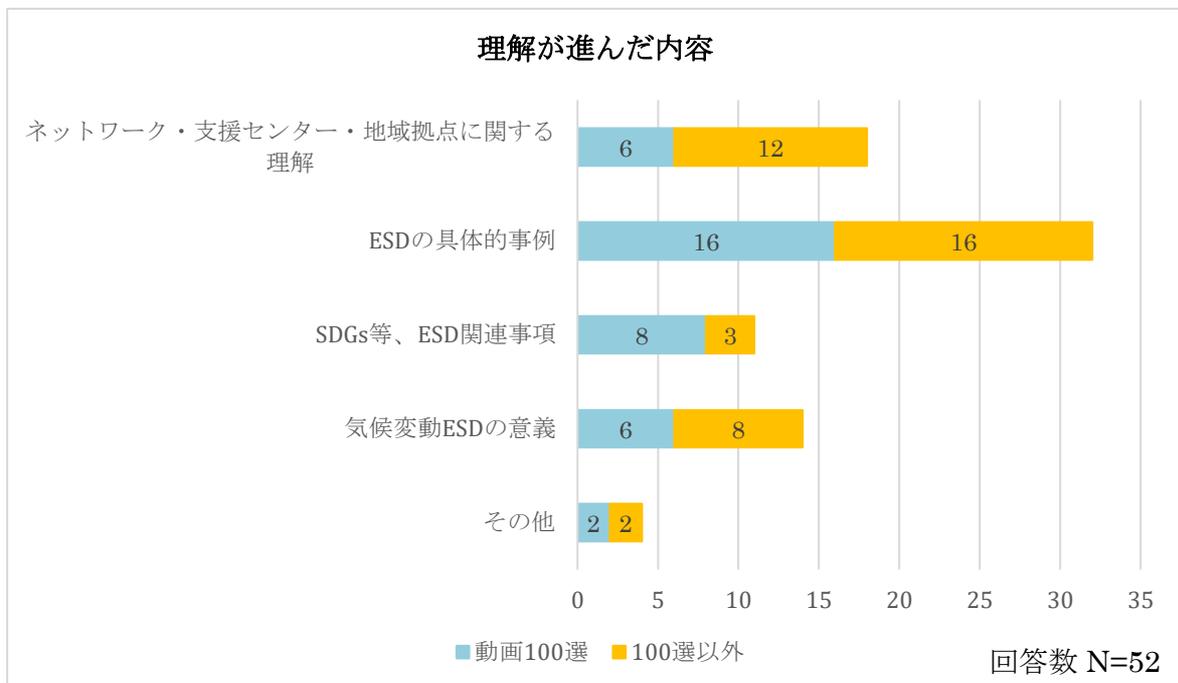
(2) フォーラムに参加して得られたもの

①フォーラムによる SDGs、ESD に対する理解の増進

フォーラム参加の成果として、多くの参加者が SDGs や ESD に関する理解が深まったと評価している（「おおいにそう思う」と「そう思う」を合わせて 83%）。

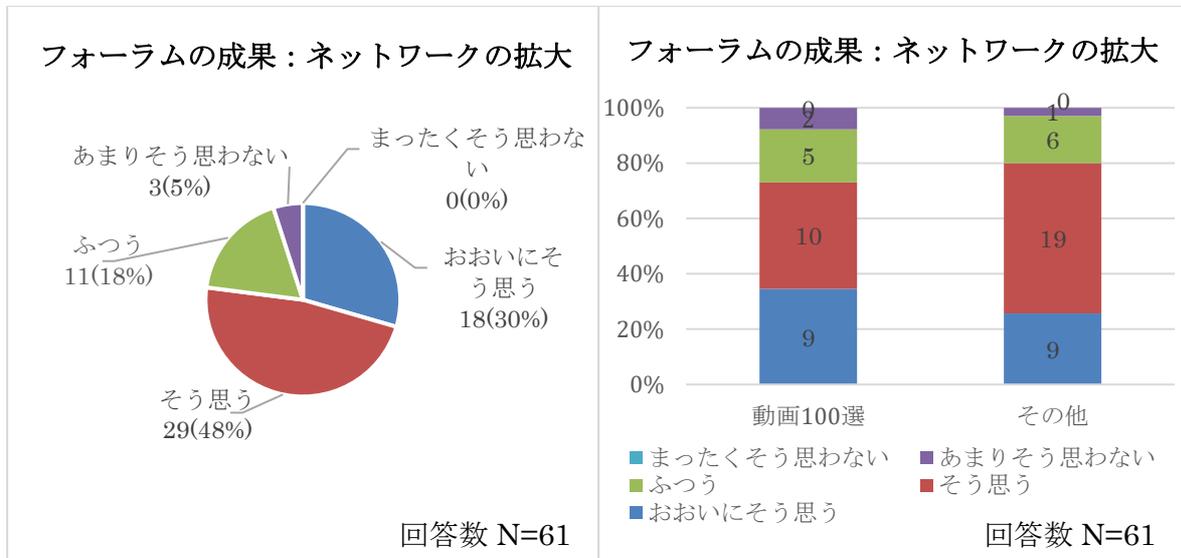


具体的には、ESDに関する具体的な事例の報告が高く評価された。その結果、フォーラムのテーマである気候変動を切り口としたESDの意義について理解を深めることができた。

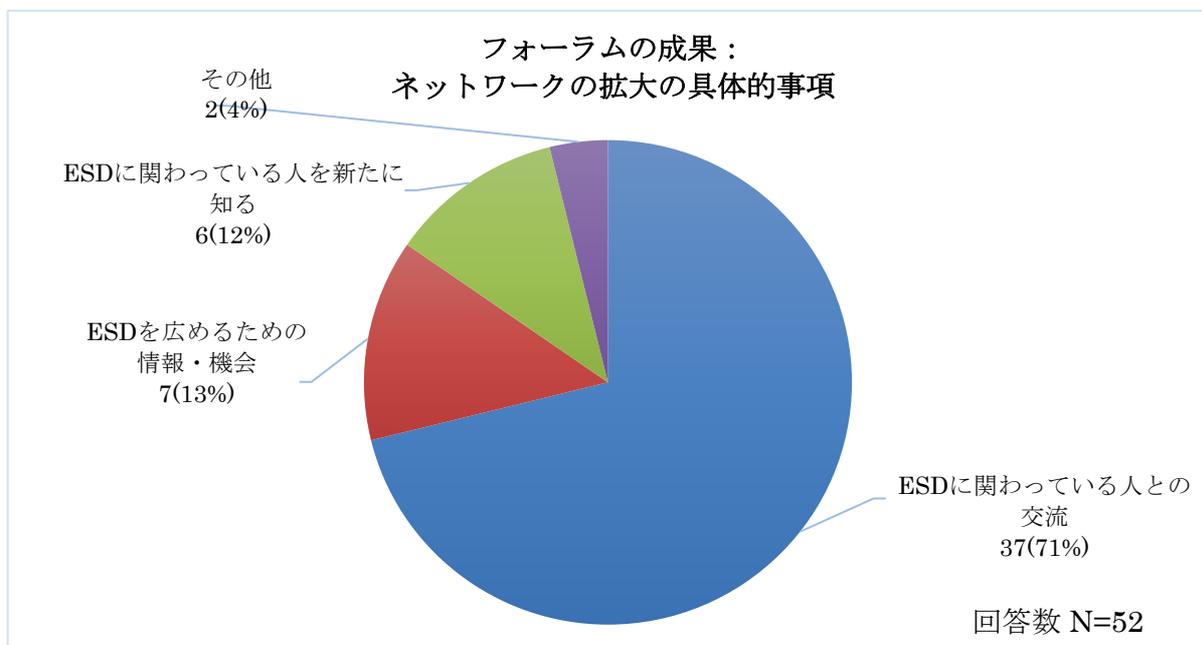


②ESD ネットワークの拡大

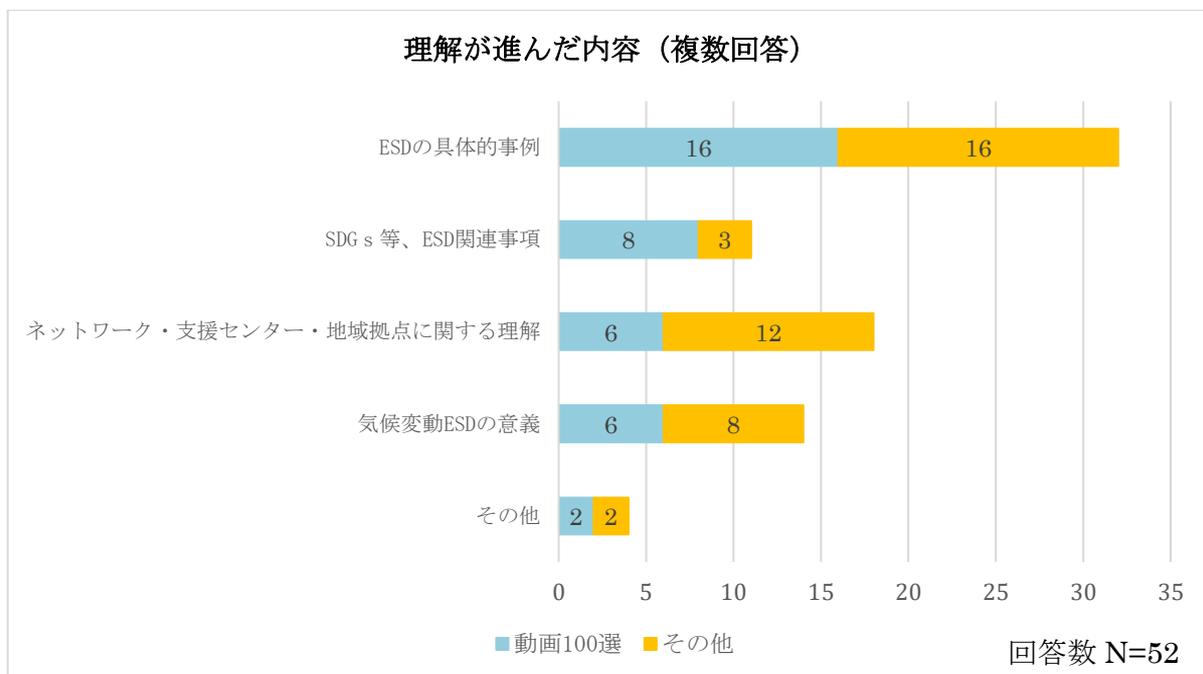
フォーラム参加の成果として、多くの参加者が「ネットワークが拡大した」と評価している。具体的には、「おおいにそう思う」が18名、「そう思う」が29名となり、それらの合計割合が全体の77%となったことから、本フォーラムによって参加者のネットワークの拡大が成功したと言える。



7割近くがネットワークの拡大につながった具体的事項として「ESDに関わっている人との交流」71%(37名)と回答した。次いで「ESDを広めるための情報・機会」が13%(7名)、「ESDに関わっている人を新たに知る」が12%(6名)回答を得られた。その他と回答された方は4%(2名)。



ポスター発表形式で実施したセッションでは各ブースで活発な意見・情報交換が行われ、新たなつながり・関係の構築に役立ったと考えられる。また、ESDに取り組む組織・人材を新たに知ることができた、ESDに関わる人たちとの交流ができたという意見が多かったことから、参加者ご自身の活動との共通性や関連性を見出し、今後の活動推進に伴い協力関係を構築する為の一助となった様に見受けられる。



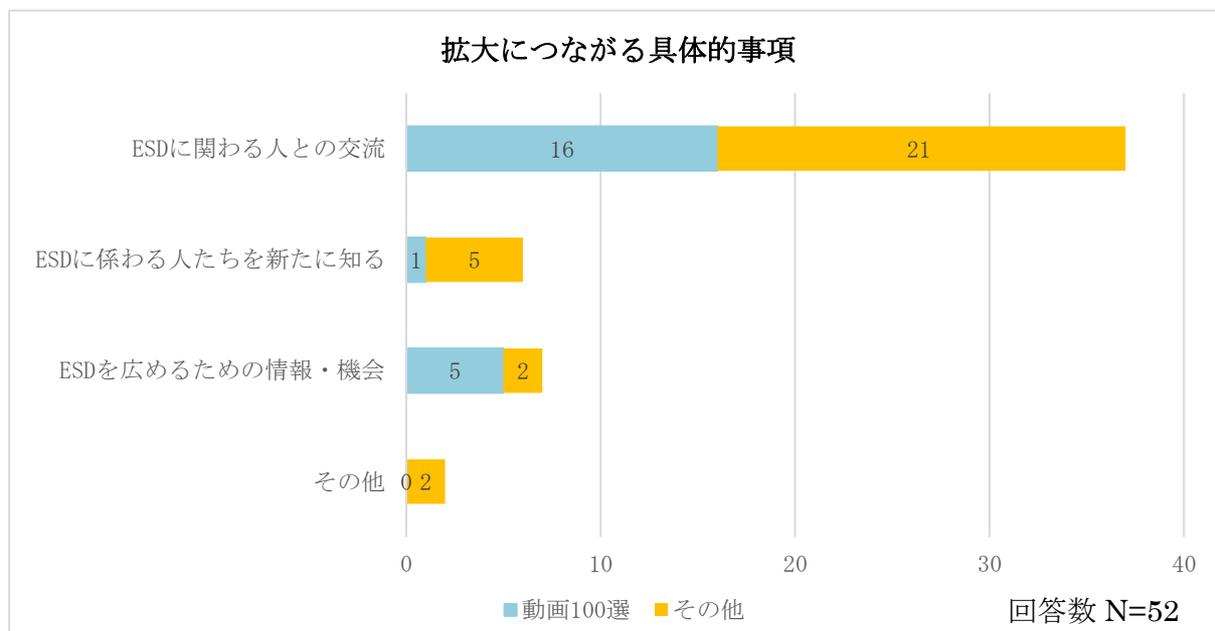
「その他」に記載された主な意見
<p>まだまだ ESD とは、どういうことが曖昧な状況で分かりにくいと言われます。「持続可能な開発のための教育」（いわば直訳）と説明しても「どういう意味ですか？」と逆に質問されます。それで「持続可能な地域を担う人材育成教育」（いわば意識）ということで説明すると少し分かっていただけます。（70代）</p>
<p>SDGs が出てきてマスコミでも盛んに取り上げているので言葉としての認知度は上がっています。そのため ESD は陰に隠れてしまっています。今後は SDGs の目標を実現するための人材育成として ESD が大切というセットの考え方を浸透させていく必要があると考えていますがどうでしょうか？(年代未回答)</p>
<p>ホームページの一覧表が欲しい。QR コードで。すぐに検索しなくても見られる、フォローできる、意見交換ができる方がいいのでは。例えば、今回の参加のための広報ページを作っておくことを義務付けるのはいかがでしょうか？ホームページにすれば、わかるはずではなくて。今回は、ここをアピールしたいところのページを作って貰うのです。（年代未回答）</p>
<p>ポスターセッションにて複数の団体の方と名刺交換ができました。（年代未回答）</p>
<p>学生の取組としては、しっかりしたものが構築されていて、教師の方々のご苦労も垣間見ることができましたが、十分理解できるところまで、聞くことができなかったのが残念！（年代未回答）</p>

本日は対面参加する予定でしたが、体調不良で欠席しました。オンラインで拝聴しました。やはり直接、皆さんとお会いすることの大事を感じております。(年代未回答)

3. ESD 推進ネットワークについて

ネットワークがどのような点で役立っているか聞いたところ、情報発信や地方センターが開催するイベント、教材・資料情報の提供という回答が多かった。特に、ESD 推進ネットワークの拡大につながる具体的事項としては、「ESD に係わる人との交流」が最も多く 37 名から回答を頂いた。このことから、情報発信や知見の提供という部分ではネットワークの有用性が認知されつつあることが判明した。

また、「ESD を広めるための情報・機会」(7 名)や「ESD に係わる人たちを新たに知る」(6 名)と回答された方が 2 番目と 3 番目に多かった点から、ESD 推進ネットワークに対して情報の入手や人脈形成の意義を見出して頂いていることが判明した。



①得られた知見・役立った相談の内容 (抜粋)

貴重な情報を毎回いただけることに感謝しています (70 代)
他市町の実践を学ぶことが出来た (50 代)
活動支援センターの利用は未だ行なっておらず、今後大いに利用させていただきたい (50 代)
全国の ESD 実践者に関する情報提供 (40 代)
ESD 取組み校へのイベント紹介、募集の協力(50 代)
教育現場で必要とする情報を公開してくれるのは、とてもありがたいです。NPO として、活動している中で、どうしても教育現場からいただく情報は、マスコミの偏った情報に頼りがちになるところを戒めてくれる気がします。(60 代)

地域の事情を活かしながら継続した支援が進められている点に共感した。(70代)

弊所ではすごろくなどの普及啓発物を、実際にいくつかの地域センターで紹介していただくなど色々な面で助けていただいております。また、センター、自治体と教育委員会との連携の難しさなど現場の声を聞かせて頂くなど、大変勉強になっております。(50代)

②ESD 活動支援センターが実施／強化すべき活動（抜粋）

教育的分野を学校教育で育むことは大いに賛成であるが、リスキリングや学び直しといった教育機関にいない方でも対象にすべきことなのかと思いました。(40代)

ESD の入り口としての場づくり（今回のような機会）。(未回答)

(1) 文科省と ESD 活動支援センター（全国・地方）の関係が希薄で予算措置もなく、学校現場での ESD が普及していない。ほとんどの教員が認識していない状況で、ESD 教育の学校での実践は一部の自治体や学校、個人としての教員の取組に終わっているのが現状です。学習指導要領前文の意義の浸透はほど遠い。(2) ESD の取組は、学校教育のみではなく、行政、企業、NPO 等でも取り組むべき教育と考えています。その場合の ESD 活動支援センター（全国・地方）の具体的な取り組みを知りたいです。(70代)

学校の教員への研修会の開催。(50代)

ESD 活動支援センターの存在を、知ったばかりです。私達のように、こんな素晴らしいセンターを知らない人がいると思います。色々な人に知ってもらいたいです。(40代)

教育委員会の教員研修プログラムなどに登録していただくとよいと思います。(50代)

相談受付、ニーズと支援のマッチング・コーディネート(40代)

地域 ESD 推進拠点への支援の強化(70代)、金銭的支援(30代)

活動拠点の質・量ともに向上させていく。活動拠点同士の交流。(30代)

今回出席させていただいて強く思ったことが、首都圏と地方のネットワークの格差を痛感しました。地方でも face to face 直接、お目にかかって指導・助言が得られるような身近に利用できるネットワークを地方にも発信していただきたい。(50代)

地域事例の具体的情報の発信・波及(40代)、一般に向けた広報、活動団体同士のニーズのマッチング、連携、協力を促進させるための活動(60代)

気候変動や平和と人権、海洋プラスチックなど、3つほどテーマを絞った分科会を設置し、活動されている NPO 等に具体的な発表をしていただきたい(60代)

自然環境や気候変動以外の分野に関する ESD 啓蒙活動、課題解決活動も展開するとういと思いました。人づくり、多文化共生、社会包摂、Well-being などに関する活動も推し進めていただきたい。(50代)

もっと、NPO 団体を信用して、教職員向けのセミナーなどに参画させていただき、私たちも

研鑽を積んだうえで、活用していただけるよう努力したいと思います。(60代)
環境省など国の人間やセンター職員は、現場をもっと見て自分のこととして活動しないと分からないだろう。人を指導することや政策提言など、無理なことと考える。(50代)
ESD 活動推進拠点相互の話し合いの場があればと思います。相互に学び合うとともに、取り組み事例を参考に吸収したいと思います。(60代)
さまざまなどのようにゲストとの出会いのある授業の際に何をどのように打ち合わせれば、主体的な学びが創れるのか、指導や助言が必要かと思った。(70代)
何か連携して取り組めるなどあるとよいです。(50代)
待ちの姿勢ではなく積極的なアウトプットが必要だと思います。(60代)
学校や自治体への情報発信をさらに進めていただきたい。(50代)

③気候変動教育のニーズ・課題・事例等 (抜粋)

現在、市民活動の中で調査している生態について、より専門的にかつ範囲を広く各地域で繋がるネットワークが必要と思いました。(40代)
環境教育と、ことばと文化の学びと交流事業が非常に密接であることを感じました。(未回答)
学習して学んだことを、行動化出来る人材をどう育成していくかが大きな課題です。(70代)
1.5℃上昇に抑えるべきというのは承知しているが、どう行動に落とし込むか、レジ袋の削減や電気をこまめに消すなどに留まらない具体策がまだ見出せずモヤッとしている。(30代)
気候変動教育の推進においては、グローバルな課題をローカルのスケールで語れる人材として、地域の環境教育人材を拡大することが急務。(40代)
企業の取組が見えない。企業の取組を教えてほしい。また、海外の取組も知りたい。気候変動は個人が取り組んでもエビデンスが明確にならないので、取り組みの継続が難しいと感じます。(60代)
学校における実践を拡大するにあたり、授業の一環で実施するための教科への位置づけが重要と考えられる。(40代)
一般向け、学校向けの教育ツール開発に取り組んでいるところです。できるだけ現場に出かけて、声をお聞かせいただいているところですが、特に若い世代では問題意識が高く、積極的に活動しているごく一部の方と、何をすべきかわからず無力感を抱いている大半の方とに二極化しているように思います。大半の若い世代の本音を拾い、ニーズに答えられるようなツールづくりが課題であると感じます。(60代)
川崎や堺の事例のように、子供たちから発信されたものが政策に届くようなチャンネル作りが大事だと感じました。(60代)
事実を的確に伝える映像等の共有ができるといいと思う。(70代)
気候変動について教科書に掲載されているけれど、気候変動教育であるという意識はされていない。(50代)

【事例】

世界の高校生と一緒に「水」について考え、メッセージアニメを作って発信する活動（私も運営に関わっています）。(50代) <http://alljp.org/ws4youth2024>

【事例】

今年度は、学校絡みの出前授業は、ありませんでしたが、14年前から続けている高齢者・障がい者環境出前授業においては、避難経路などの授業を取り入れ、より、自分毎に置き換えられる授業を展開しています。(60代)

④ESD全般への意見（抜粋）

とても良い活動。ただし、何故かボランティアという背中合わせで動いているため、持続的に活動ができるのか？という課題が常にぶら下がっているように感じています。まず、この活動の支援者の平均年齢と対象者の年齢を算出する中で、ボイドとなっている世代をどのように巻き込むのか？各地域で広がった電子通貨などのポイント制度とボランティア活動の両立はできないのか？という分野を跨いだ解決策の一手を先行して打たない限りでは、今後の人口減少の中で後戻りできない衰退をしてしまうのではないかという不安を持っています。(40代)

ESDの意義や価値を日本の文化として生き方として普及するためにESD活動支援センターが全国に設置されましたことは本当に素晴らしいと思います。大変ですがその先導役として牽引して行って欲しいと切に願っております。よろしくお願いいたします。(70代)

未来をテーマにした領域を横断するテーマだと感じました。(未回答)

すぐに成果が分からぬが、出来る事をやっていかないといけないと思っている。(70代)

今後ますますESDが重視される中で、学校現場の理解を高める必要があると感じます。(50代)

ESDが始まって20年たつなかで、日本も世界も逆に持続不可能な方向性に向かっている。そうした中で、目指すべき社会の姿を再認識する機会が必要とも感じる。(30代)

環境教育という面からすると、まだまだ弱い、拡がり小さく、限定的と感じました。私は環境教育出前講座の講師をしていますが、文科省も環境教育については強化の方向だということがわかりましたので、学校現場での教育機会の拡大にむけて取り組みを進めたいと思います。(60代)

ESDを行なうにあたって、一番苦勞するのはネタ探しだと思っています。新しいことを始めるにあたって方向性を決めることが大変です。そういう意味で全国・全世界の取り組みを身近に触れられるような環境をつくって欲しい。(50代)

文科省や環境省、外務省などが牽引役だと思いますが、活動に対する資金的な援助が乏しい。自治体に至っては、活動資金援助が皆無である。行政の本気度が感じられない。(60代)

<p>持続可能な社会を作るには、環境教育だけでは不十分で、さまざまな視点での取り組みが必要であると感じています。(50代)</p>
<p>「教育」＝「子供たち」のイメージがあると思いますが、気候変動対策の実践者であるべき大人たちに、子供が学んだ内容を伝える工夫が必要であると考えます。子供を介して大人を変えていく必要があると考えます。(30代)</p>
<p>教育は未来を動かすための最強の策だと思います。今後の役割に大変期待しています。(60代)</p>
<p>東京だけでなく地区でも実施していただきたい。(未回答)</p>
<p>かっこばかりを求めず、ESDの本質を追求すべき。(50代)</p>
<p>ESDの項目は社会、経済、環境と、幅広くあります。ESD活動推進拠点を見ておきますと、やはり自然系や環境系が中心となっているようです。確かに、拠点として名を挙げる団体は、環境面での啓発施設が多いため、自然の流れかと思えます。今回のテーマも、温暖化にポイントが絞られていましたが、課題の大きさから言えば、この方向で良いのではないかと思います。今後ともよろしく願いいたします。(60代)</p>
<p>青少年団体としてESDに参画できていることに意義を改めて確認できる機会となった(50代)</p>
<p>弊所のウェブのアクセス数を見ていると、生物多様性、自然生態系を守るというテーマについて、関心の高い方が多いことを実感することが多いです。生物多様性、自然生態系を保全した上で、どう気候変動に取り組むか、例えば、ネイチャーポジティブ、EbA(Ecosystem-based Adaption:生態系を活用した適応策)など、適応策の重要性をもっと広く知っていただけよう力を入れていきたいと考えています。(50代)</p>
<p>来年度から学校として取り組みたいが、アドバイザーのような方にオンラインでも支援いただけるとありがたい。(50代)</p>

以上